

＜ 現地カウンターパート（協力組織）とスタッフ紹介 ＞

— 情報収集・住民とのパイプ役・・・、私たちの活動には信頼できる現地スタッフの存在が不可欠です —

CMB (Catholic Mission to the B'laans) :

- * 設立の経緯と HANDS : 1958 年にサウスコタバト州ビラーン民族コミュニティー・ボールールで宣教を始めた神父たちは、土地を失った先住民族の窮状に出会い、宣教以前の問題、生き延びるための闘いを支えることとなります。CMB の前身 Assumption Mission の始まりです。当会発足にあたっては、この CMB の支援姿勢、特に当時の代表ビトイ神父への信頼が決め手となりました。
- * 現況 : CMB 担当神父の任期が 1-2 年と短くなって、私たちの支援事業の管理を任せるのは無理とわかり、スタッフによるプロジェクト管理チーム(PMT) 設立を要請しました。発足 1 年を経過した今、ミッション内組織としての限界も見えてきましたが、通信担当リッキー（議長兼任）、小学校教師、助産婦 ジョジョ、土木・農業担当ロニーなど経験豊かなスタッフに期待しています。



ラムブソンで、無線機の調整をする PMT 議長リッキー（右）。エンジニアとしての技術だけでなく、ギター演奏、作曲も得意な多彩な才能の持ち主です。



組合長ネニータ（左端）とスタッフのローナ（右端）

COWHED (Cooperative of Women in Health & Development) :

- * 設立 : 1995 年に CDA に登録・発足した主にチボリ民族女性からなる組合です。組合員は現在 65 名。ティナラク織 (13 名) 刺繍 (24) ビーズ (18) 他、それぞれ得意な伝統技術を生かして、技術研修、材料・製品の共同購入・販売など組合を通して女性の収入増加を図っています。有給スタッフはローナとアイダの 2 名のみです。
- * 当会との関係 : 2001 年当会実施のティナラク織と縫製技術研修及び小口資金貸付事業 (FIDR 助成) において現地事業管理を担当。現在も販路拡大で協力しています。

PPHC (Pasasambao Primary Health Care Center) :

- * 設立 : 1984 年マルコス時代に弾圧の被害者となった女性たちのリーダーによって結成されたモロ女性センター。その医療部門として、2000 年 11 月に G. サントスのモロ民族居住地に設立されました。パササンバオ・クリニックと呼ばれるその小さな診療所では、鍼灸・指圧、薬草利用などを取り入れ、ヘルスワーカー研修でもその指導に力を入れています。代表のナブサさんは、看護師 (Paradoctor として一部医療行為も可) として、避難民の巡回診療団にもよく参加します。経費節減でスタッフは当会奨学生 (助産婦コース) サミヤのみ。
- * 当会との関係 : 2002 年 7 月のモロ民族 3 コミュニティーにおける母と子の識字・衛生教育事業で本格的に協働を開始。PPHC の経費をかけない医療はビラーンでも参考になります。



代表のナブサリータ・サラさん



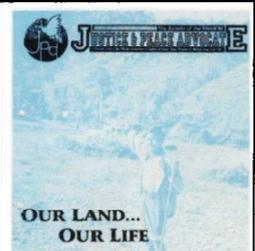
ブラクールの巡回診療を手伝うピビアン（右から二人目）

PFP (Partners for First People) :

- * 設立 : SCM (レイクセブ町のチボリ族支援ミッション) の元スタッフにより、1995 年に結成・登録された先住民族の住民自治組織育成を支援する現地 NGO です。サウスコタバト州スララ町の事務局には、事務局長ロニー、会計ピビアン他農林・建設専門の有能なスタッフがいて、ブラクールやファレルなどの先住民族コミュニティー自治組織の経済的自立推進や環境保全事業を指導しています。
- * 当会との関係 : 昨年 6 月、当会がブラクール支援を少数民族里親の会から引き継いだ関係で協働することになりました。

J & P Desk of Marbel Diocese (マーベル教区 Justice & Peace Advocate 編集局) :

- * J & P Advocate の創刊 : 1992 年の創刊以来、Sr. スーザンを中心に、一貫して先住民族や社会的弱者の人権問題、生態系を破壊する開発反対を軸に編集されています。ドール大農園や銅開発多国籍企業(WMC) に対するビラーン民族の闘いにも多くの紙面を割いてきました。
- * 当会とのかわり : ドールからの土地返還 (一部) を実現したラムクア地区に対して、弁護士を目指す学生フェリッサ支援などを、Sr. スーザンを通して行っています。



1998 年 5-8 月号